七組入子枕 二編

仙果述
国芳画

喜鶴堂梓

へ遠13
1868

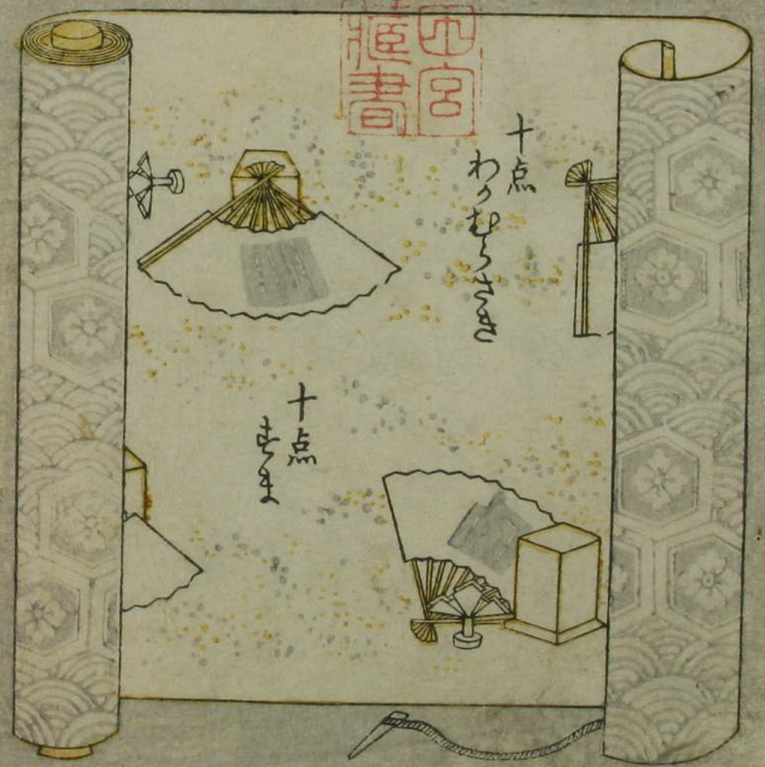
七ツ組
上
喜鶴堂版
仙果述
國芳画
庚戌
新梓
子抗
貳編
下

18遠へ門
1868

人子枕

茅二編上

笠亭仙果述
歌川國芳画
戊春 喜鶴堂梓



宮内庁書陵部

あのうみ入る枕の
二乃ん一ぢぬむすめ
のすきき 狄ゝ

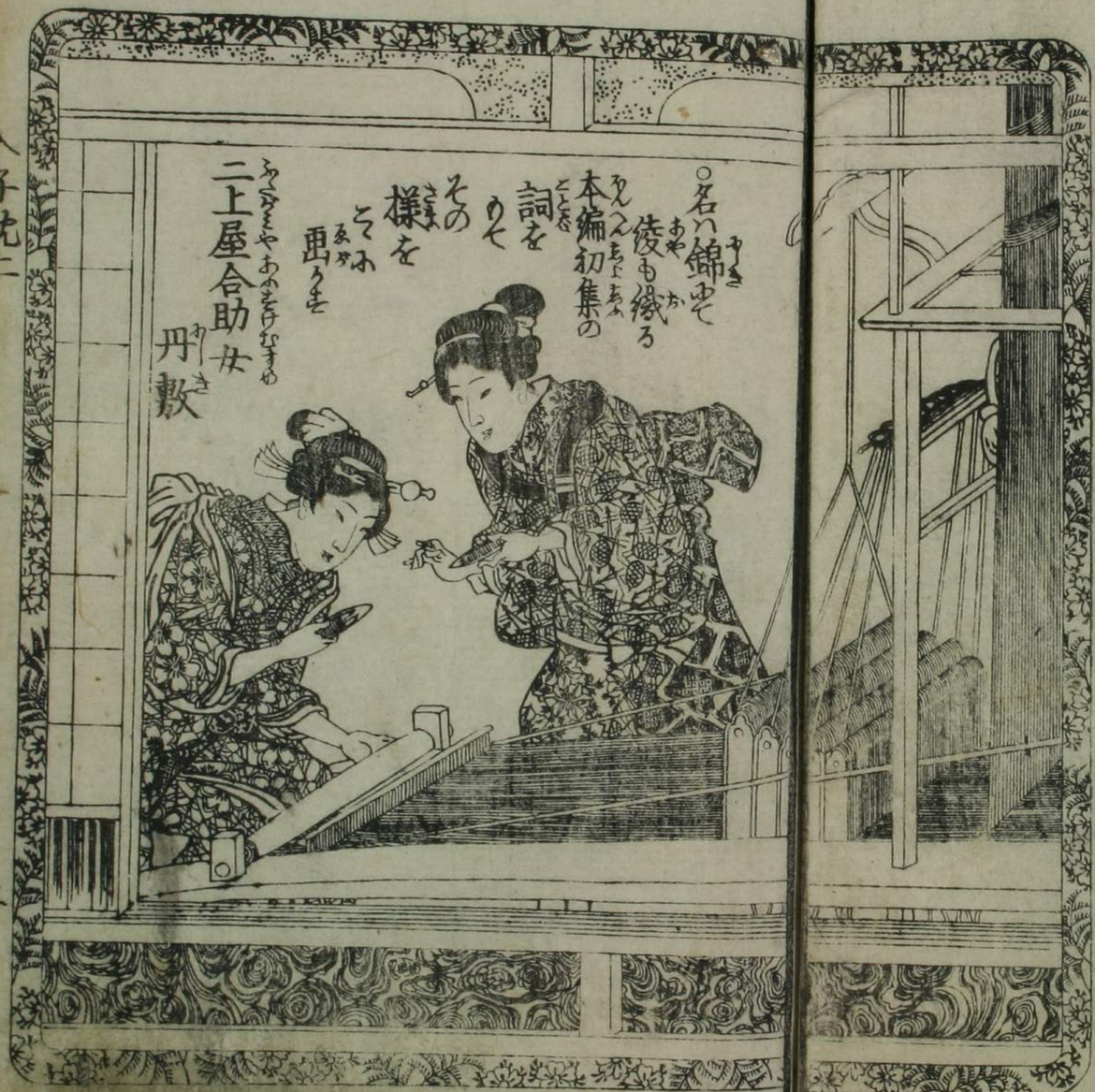
人形ぬけあしたのまくら 鞍ふ
ひろ乃詞ゝ 初ゝ床 ゝ

此歌ハ女一人ハ二人の婿の取れねゝと物ハ寄て咏るゝ假設ばゝ一女あり
その親以前甲其の妻ハやゝんと約ゝ後来意ハ恨ハ又乙其ハ縁と組女子を
送程ハ及び前の甲某聞て宥さむ豆ハ豆非と争慕ア下ハそハ結果ぞ帽子目
深ハ掩べき顔あるべくハ内ち出さを細石の八千代とも祝ハ面さまハ官廷の砌の石ハ
跪き公の裁許と詰ハ其時公私とも後と非とゝ前のハ決さまるゞ定例ゝ実
道理ハさもあらん人情ハ愿けば其最初軽卒ハ許ゝ迄ゞ過失ハそ後改ゝ
違ハ及所其證故ハ前のハ或ハ賤く又貧く後のハ富ゝゞ身躰の貴ゝ前ハ後ハ
劣るハ色ハゝる親ゝ子の為ハ栄耀栄花を希望ざゝん其欲心ゝ前と異
後と取んとまるゝまと過て改るハ憚ゝ然ばゝ忍ゞば廻れども短
慮ハ功と成ぞともハの殊ハ女子と嫁まる一条ハ右大事一女二男と重ゝハ人倫の

道ふのしず一日女男とれば衣服おかまる油の一滴衣い破ても失ぬごとく圭瑕も
磨ても痕らん此疵ハ癒ゞ又男とし女より辞ぎそハ一ゟたくれハ甲某も乙某も
でるハひろぎ親の慈愛ハ子の雙ぎ当然の理争難く進まぬ所へ縁づきかゆい
と苦るも原軽卒に起ぎ過失ぎと歎ハ一紀事るゝぎや此巻の小江六夫婦ゞ所業
こりぎけ沙猿くて其女ハ幸ぎの冨栄たる美沙るまゝ教誡ぎ疎げれど悍婦醜
名を揚げ淑女ハ良縁を結ぎそ勧懲の理明るゝ是も亦笠翁ゞ十二楼の第一
楼奪錦の錦詞奪へど拙ぎ愚ぎの魚賈の腥き古半纏ゟきさぎくるむ

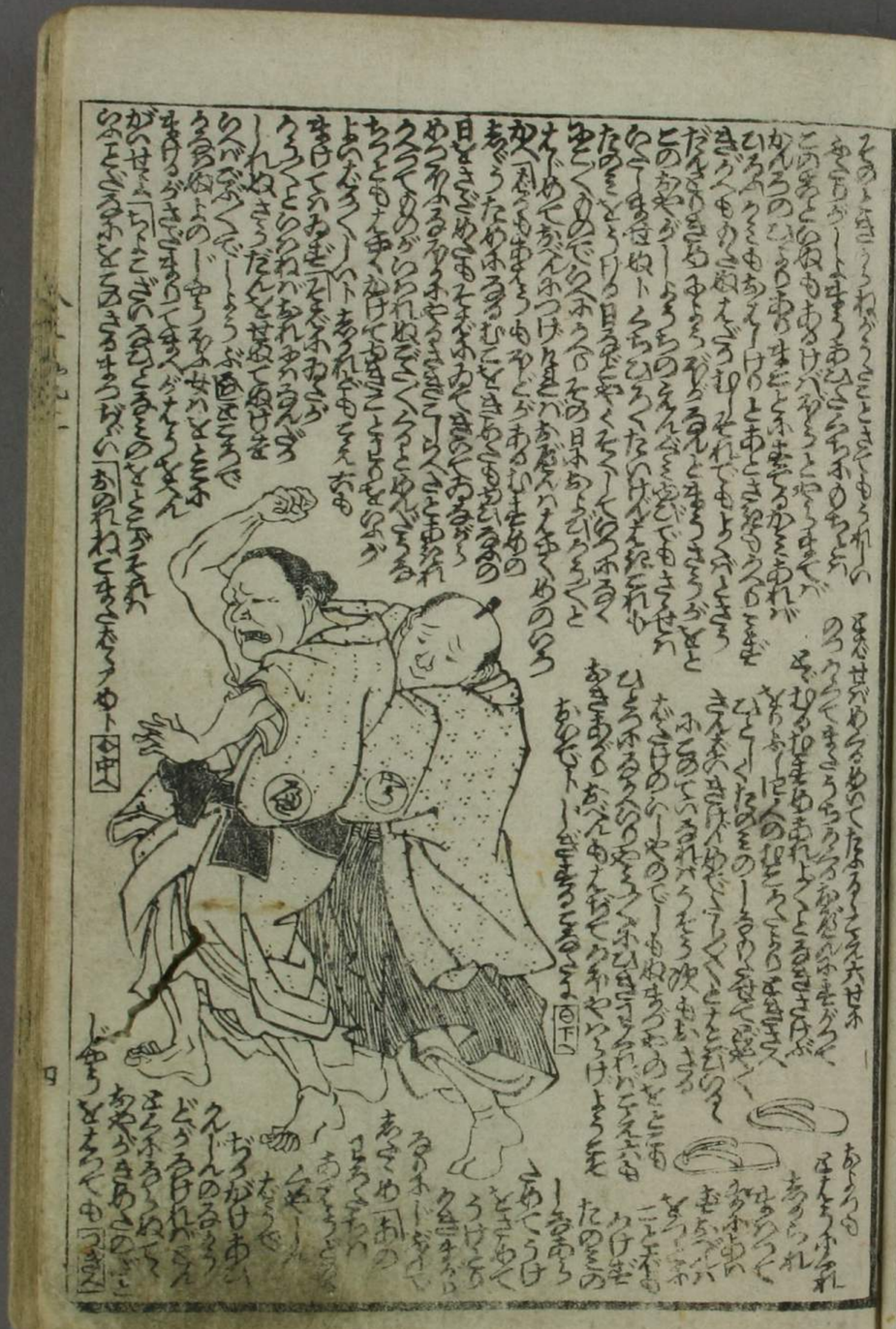
庚戌孟陬新著

笠亭仙果記



了念尼俗ろりし時
銅器と焼て美顔と爛うを図

杜夏供太郎
恭光
後ホ隠家
茂醉と称す



仙果述
國芳画

給助婢女の話ゆて

つぎ　つけそのふたのそこへてをそうだおひるさま
ふちをつとあるせてんぐさりけせ
おきぶくあるところのかみと
ゲイトくてをそりみぐらあり
やっこはこのものごろまで
きんぐふっろらうて
ゆんとおまえもぐやう
きとうけたまつって
やろたり
ひぶきと

左り

左り　あちのものまるまるぐるぐるまーこー
るれくーげふのかかれどおひるい
まきをまるうーのをいかれのんと
たるらのみとり「ちとるのおをを
のをまるぐあるるまくさるあっ
らくトこのとこををかさうとうぐ
おひるがひをとうるまを
のひとろふるるまを
みをとせて「ひるさ
つをとどがくらう
つをうもあるこう
ゆくろこをりを
ををもでもをれの
ぐをくををひとり
ををを思てかるもるる
のかりかっるるや
くをきをしふあるを
をてあをこも
ををかぐををるの
ををもるるのよ
ふどあるやるく
るるるるる
るるやすい
ををうーるぬぐ
むりのかりかるの
きをこのをふる
るくををいるるく
あるて

左り　あちのものまるまるぐるぐるまーこー
るれくーげふのかかれどおひるい
まきをまるうーのをいかれのんと
たるらのみとり「ちとるのおをを
のをまるぐあるるまくさるあっ
らくトこのとこををかさうとうぐ
おひるがひをとうるまを
のひとろふるるまを
みをとせて「ひるさ
つをとどがくらう
つをうもあるこう
ゆくろこをりを
ををもでもをれの
ぐをくををひとり
ををを思てかるもるる
のかりかっるるや
くをきをしふあるを
をてあをこも
ををかぐををるの
ををもるるのよ
ふどあるやるく
るるるるる
るるやすい
ををうーるぬぐ
むりのかりかるの
きをこのをふる
るくををいるるく
あるて

つぎ　むすめがやうをひも
こがきてえんりこりみて
てのみこるれどおらっぢき
るちんをこーあれもりやとと
きうさきまのーちひろへをの
けれがあーりとこさのせ4ろのよろーをきてり
おひるふつがれがふひるりひとーをみをとを
をひのかさのゆ　きさんっとうとあかのようあか
りんとうるををってきをのちやゆっそのろく
ろをーにあるをうーとあっかまっーんをでんあろ
のるむもひけふりやひきっやをてりひやっもがを
えやっかせーをらをえざやきをををっトをり
ちひてるりのかをよをかをれみがれーまくをがっ
かれをあらひてれををのろふきをるかるぬ
ろんぎをひっちけをとより をがる ゆをがるを
きみりろをををどのろまをまをろくををををくり

つぎ

左り

あるをこれろくご八ん
トをあるませをう
きをしてをるをとこれ
かるんむのこがをきを
あるををこををでちも
られりをうがをまのん
これををあるををまをろ
ちるをるかるくーをとれ
かをしてををきをやをきをを
せがおひるみもをやをるの
をるもをををみるきをるう
むるわんぬけかをををみををを
えをるりをとをるををひ　わ　きををるーの
みをきをまあるををのきだをををのの
やをををのをるををーをあのひをみ
よみをちあくをるやをるをのあの
をけををのれんをるみのがめのやう
かっをかをををををををををををを
をををををををををををををををを
みををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
を

合景

3 年10 月

柳下亭種員作
獄面影草紙 初編二編
一雄齋国輝画
同
太郎七星奇談 初編二編
同 画

国貞国画 初編三篇 當春出板
芝神明前三島町角
国貞錦繪草紙印店
佐野屋吉兵衛板

根源實紫

笠亭仙果作 一勇齋國芳画

睦郷鬢言 七ツ組八子桃

三編四編 柳下亭種員作 一勇齋国輝画

浅間嶽面影草紙

初編二編 同 一雄齋国輝画

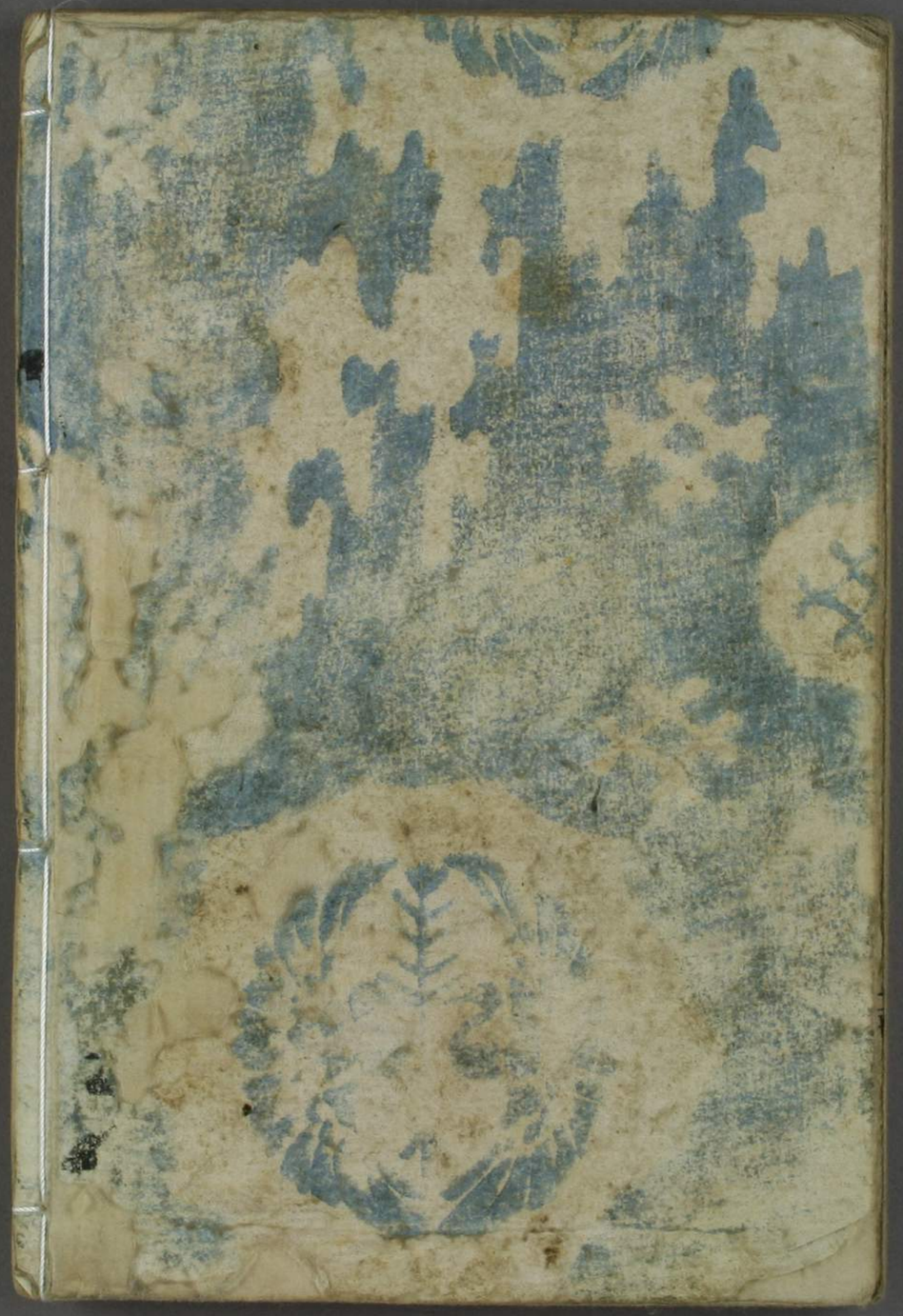
奥州みちのく 総次郎琴聲美人錄

六編七編 山東庵京山作 一場齋豊国画

破軍太郎七星奇談

初編編 同作 同画

關太郎鈴鹿故語

初編二編 楽亭西馬作 一雄齋国輝画

江戸團扇錦繪草紙卸店 芝神明前三島町角 佐野屋吉兵衛板